

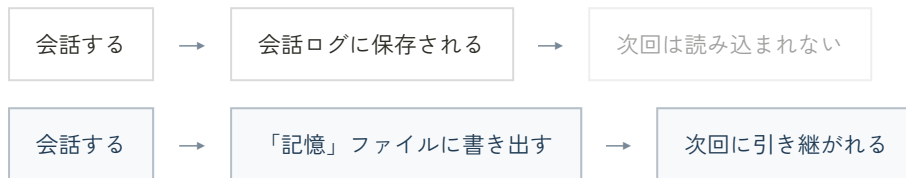
AIに「第二の脳」を持たせる。 Obsidian×AIエージェントで、 話した内容を資産に変える仕組み

AIに相談すると、その場では的確な答えが返ってくる。
ところが翌日また開くと、昨日の話をまったく覚えていない——。

原因はAIの性能ではなく、「話した内容を置いておく場所」を
用意していないことにあります。

なぜAIは、昨日の話を覚えていないのか

AIが忘れるのは不具合ではなく**仕様**です。会話ログは保存されていても、次回の起動時には読み込まれないことが多いからです。



引き継がれるのは、記憶として明示的に書き出されたファイルだけ。
会話しただけで書き出されなかったことは、次回には存在しないのと同じになります。

Obsidianと繋ぐと、何が変わるのか

① 双方向で読み書き	AIの記憶もノートとして開ける。AIが覚えたことを人が確認・修正でき、人が書いたメモをAIが参照できる。記憶が「中身の見えない箱」でなくなる。
② リンクで繋がる	[[ノート名]] でノート同士が繋がる。バックリンクにより「このノートを参照している他のノート」が自動表示され、過去の文脈を掘り起こせる。
③ 判断理由が残る	価値があるのは決定そのものより「なぜそう決めたか」。半年後に同じ論点が再燃しても、議論を最初からやり直さずに済む。
④ 消えない・持ち出せる	自分のPC内のテキストファイル。サービスが終了しても手元に残る。Gitで変更履歴も追える。

作り方 — 4ステップ

プログラミングの知識は必要ありません。設定ファイルを1行編集する程度の作業です。

01

保存場所を 1つに決める

置き場所が分裂していると、どこにも全体像がなくなる。業務のテキストは原則すべてここへ。

02

記憶の保存先を vault内に指定

連携の核心。設定で保存先ディレクトリをvault内のパスに変更する。

03

入口のノート 1枚つくる

ノートが活用されない最大の原因は、開いたときの入口がないこと。

04

リンクを書く 習慣をつける

関連ノートにリンクを1つ張る。これだけを習慣に。

ステップ2の見落とされがちな効果

ツールによっては、**起動したフォルダごとに記憶が別々に保存される**仕様のものがあります。この場合、いつもと違う場所からAIを起動すると記憶がまったく読み込まれません。「昨日は覚えていたのに今日は忘れている」という不可解な現象の原因は、たいていこれです。保存先を固定パスに指定すれば、どこから起動しても同じ記憶が読み込まれます。

ステップ3：ホームノートに書く3つのこと

- **いま動いている案件へのリンク**——今日見るべきものが最初に目に入る状態にする
- **よく戻る場所へのリンク**——事業方針、料金表、取引先一覧など月に数回引く情報
- **書く場所の判断基準**——「思いつきはここ」「決定事項はここ」。迷った時点で書くのをやめるのを防ぐ

このホームノートは、AIエージェントに作らせることもできます。「vault全体を見て入口になるノートを作って」と頼めば、既存のノートを読んだうえで目次を組み立ててくれます。

つまずきやすい4つのポイント

「記録がない = やっていない」ではない

外注先や他部署が担当している作業は、そもそも自社のノートには残りません。記録の不在を根拠に「未対応だ」と判断すると、相手に確認の手間をかけたうえ信頼も損ないます。**ここには何が記録され、何は記録されないのか**——その範囲を最初に決めておくことが重要です。

記憶は自動保存されない

会話しただけでは記憶ファイルは増えません。重要な話をしたら、その場で「これは覚えておいて」と伝える習慣を。逆に、残したくない話は「覚えなくて」と伝えられます。

古い記憶が、静かに残り続ける

記憶ファイルは書いた時点のスナップショットで、状況が変わっても自動更新されません。社名を変えた、担当が替わった、方針を転換した——にもかかわらず古い前提のまま提案が返ってきます。定期的な棚卸しの仕組みを用意してください。

認証情報を書かない

パスワード・APIキー・Webhookのアドレスは、ノートにもコードにも直接書かない。vaultをGitやクラウドで同期していると、そのまま外部に出ていきます。別ファイルに分離し、同期対象から除外するのが原則です。

導入前チェックリスト

- ☐ 知識の置き場所（vault）を1つに決めたか
- ☐ AIの記憶の保存先を、そのvault内に指定したか
- ☐ どこから起動しても同じ記憶が読まれる状態か
- ☐ 入口となるホームノートを作ったか
- ☐ 「何を記録し、何は記録しないか」の範囲を決めたか
- ☐ 認証情報を同期対象から除外したか
- ☐ 古い記憶を棚卸しする仕組みを決めたか

まず何から始めるか

いきなり全社導入は不要です。**自分ひとりのvaultを1つ作り、AIの記憶の保存先をその中に指定する**。この2つだけで体感は大きく変わります。完璧な分類体系を設計するより、1枚でも多く書いてリンクを張るほうが早く役に立ちます。

株式会社DnD <https://dnd-inc.jp> お問い合わせ：<https://dnd-inc.jp/contact.html>